

# 未来への地団

建設未来フォーラム

代表 佐藤 士朗

どこのメディアも取り上げなかった(知らなかった)物語があります。大雨が降ったその日、自分達が施工している護岸工事現場が心配になり様子を見に行った代理人さんがいました。

現場にたどり着き、ふと上流を見ると真黒な土石流が流れて

きているのが見えたそうです。慌てて山中に逃げ込んだのですが、ふと自分たちの現場の下流域に民家があり、おばあちゃんが住んでいたことを思い出しました。

上流部には二つの砂防ダムがあったのですが、心配になり長い山道を走り抜け

たどり着いたところ、民家は半壊状態になっていました。「おばあちゃん!」と叫ぶと中から不安そうに出てきて無事な姿を確認できたのですが、このままだと危険と判断

## 自然災害と建設業 ⑩

### 土石流で、人命救助

#### 公共地域との物語作りの場

し、そのおばあちゃんを背負って山道を抜け避難所に連れて行ったそうです。

もし上流に砂防ダムがなく、護岸工事もされていなかったら尊い命が失われていたかもしれません。

流部分の大きな岩の上に置いてこれ以上災害が起きないように祈ってきたそうです。

予算と物造りばかり着目されがちの公共工事ですが、多くの現場では表に出ない

の場なのかもしれません。

これらの物語をもっと多くの人々に語ってもらおう事により、公共工事に携わる仕事の素晴らしさを地域住民にも伝えてほしいと願っています。

最近ではブログやFacebookを使った現場からの情報発信も多くなっています。

公共工事対地域という枠で考えると壁が生じるのですが、そこで働く人と地域住民とい

きました。危険な現場の立ち入り禁止区域の中で何が行われているか、私たちには見えない部分がたくさんありますが、その中ではさまざまな伝説や物語が多く生まれています。

公共工事対地域という枠で考えると壁が生じるのですが、そこで働く人と地域住民とい

う人対人の関係を築いていくことにより公共工事の本質が理解されてくるのではないのでしょうか。



# 未来への地団

建設未来フォーラム

代表 佐藤 士朗

災害に対する復旧活動の聞き取りをさせていただいた中でよく出てきたのが経験値という言葉でした。

他県でも災害があれば駆けつけて、その中に飛び込んででも経験を積んだ方がよいとおっしゃっていた建設業の方もいました。

経験値は技術力、ノウハウ、予期できぬことへの対応力、判断力、リーダーシップなど多くの能力を高めるための糧となります。

若手とベテランの違いは経験値の違いと言っても過言ではないと思います。実は人の持つ能力はみんな同じなのです。

## 自然災害と建設業 ⑪

### 余裕を生み出す経験値

#### 心意気を若手に受継げ

例えば若手とベテランの違いは下図のように表せるのではないのでしょうか。

初めて現場に出た時には経験がありませんので余裕が持てず、必死の努力を積み重ねていきます。

余裕が生まれてくるその余裕を使ってさらに多くの経験を身に付けることができます。

現場を積み重ねていくうちに経験が重なり、さまざまな対応力が身に付いてくると、能力が圧縮さ

れ現場力となって表れてきます。

すると少しずつ余裕が生まれてくるのです。

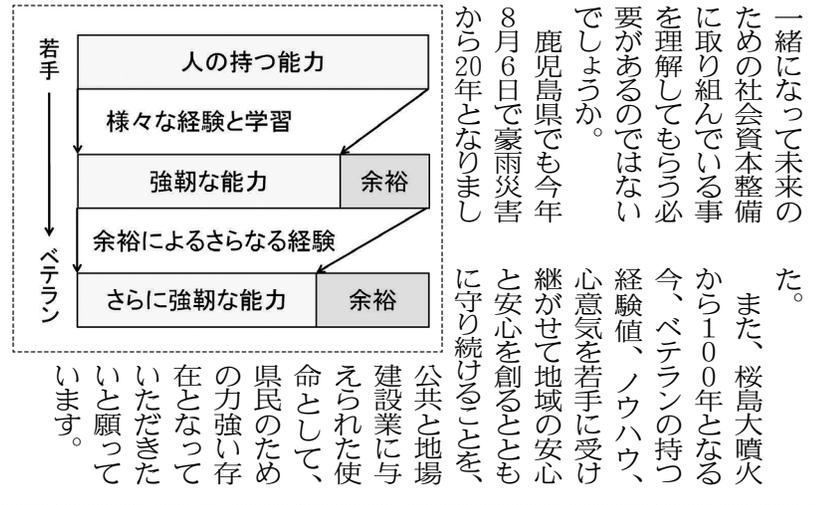
余裕が生まれてくるその余裕を使ってさらに多くの経験を身に付けることができます。

土木に対する若手人材不足の問題も、

とになり、そこから生まれる余裕が自分のさらなる成長とともに若手育成のための手段として活用できるようになってくるのです。

鹿児島県でも今年8月6日で豪雨災害から20年となります。

公共と地場建設業に与えられた使命として、県民のため力強い存在となっていていただきたいと思います。



た。また、桜島大噴火から100年となる今、ベテランの持つ経験値、ノウハウ、心意気を若手に受け継がせて地域の安心と安心を創るとともに守り続けることを、公共と地場建設業に与えられた使命として、県民のため力強い存在となっていていただきたいと思います。